

国際移動と女性

～「移民の女性化」を考える～

近年、フィリピン、スリランカ、メキシコなどから海外に移民し、家政婦や乳母として働く女性が増えている。先進国での女性の社会進出に伴い、ケアワークの需要が高まっているからだ。しかし南北間の女性の出稼ぎ労働の増加は、あるジレンマを引き起こす。先進国の女性は、フェミニズム運動を背景に、家を出て働くようになった。そして、第三世界の女性を雇うことで、家庭の空白を埋めることができる。では、こうして雇われる移民女性の子どもの世話は、だれがするのか？



映画上映：**「母がクリスマスに帰るとき…」**

(ニリタ・ヴァチャニ監督/インド、ギリシャ、ドイツ/1995/シンハラ語/107分/日本語字幕付)

トーク：

ヴィルジニー・ギロドン

(フランス国立科学研究センター/パリ政治学院)



日時：**6月20日** (水)

17:30-20:15

会場：**扶桑館 103** 番教室

後援：山形国際ドキュメンタリー映画祭

来聴歓迎・予約不要

同志社大学
グローバル・スタディーズ研究科

tel. 075-251-3930

e-mail. ji-gs@mail.doshisha.ac.jp